

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200081		
法人名	株式会社 サンケイ		
事業所名	グループホームチアフル笑明かり・咲明かり(咲)		
所在地	一宮市浅井町尾関字西五輪26		
自己評価作成日	平成29年12月10日	評価結果市町村受理日	平成30年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

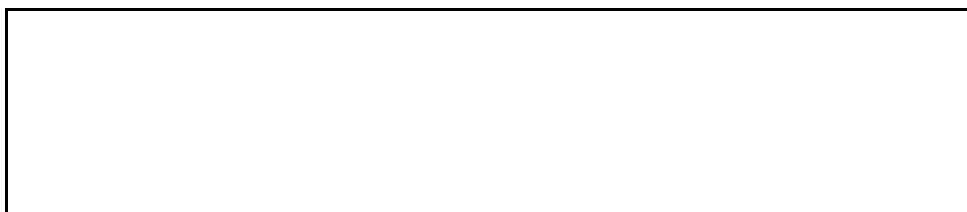
「生きてるってすてき」と思える家という理念のもとに、1人1人の思いや出来る事を可能な限り支援している。利用者様の重度化もあり、個々の利用者様に対しての支援や要望等を叶える為に個別ケアに力を入れている。行きたい所や、やりたい事など日々のケアの中からご本人の思いをくみ取る事を大切にしている。外出支援では、継続的に地域の喫茶店を利用する事で地域の方との交流や利用者様が安全に入れるようスロープを作って下さる等の協力もして下さっている。また、食事は彩り・栄養・旬の食材・食べやすい工夫等を考え毎日の食事を楽しく・美味しく・満足して頂けるように努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2392200081-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	平成30年1月31日		



V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念を毎月ミーティング時に全員で復唱し、意識の統一を図っている。職員間で理念の共通意識を持ち、日々のケアの中で活かせるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩・外出・買い物等は地域を利用している。施設の行事にも地域の方を招いたり、毎週火曜日はふれあいサロンを開催、今年度は地域のピカピカ大作戦へ参加し地域交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	夏まつり・運動会・町内の祭り・運営推進会議・サロン等で地域の方と交流を持っている。地域へ行く事や施設に来所してもらう機会を設け、認知症への理解を深めてもらえるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族代表・町内会長・長寿会会長・民生委員・包括支援センターの参加があり定期的に行っている。管理者・ケアマネジャー・リーダーが活動内容を報告し意見交換等を行い日々の運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議等に施設の現状報告やご家族・地域等から意見交換を行った内容を検討し、管理者やケアマネジャーが主に連絡を取り合い協力体制を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束への理解は、内部勉強会やミーティングで学び理解している。現状として、玄関から外は交通量も多く安全面上施錠する事が多い。日々のケアを職員間で意識し取り組んでいる。今後		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部勉強会や外部勉強会等を利用して学ぶ機会がある。ミーティング等でも、職員全員で確認をしている。また、日頃から意識をしながらケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法的な制度は、理解している職員は少ない。職員が専門職として、必要な知識や技術を学び幅広い視野を持っていく事が求められる。勉強する機会を作り学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	主に、管理者が行っている。不安や疑問等がないよう十分な説明を行っている。ご家族様からの不安や疑問があれば管理者・リーダーが迅速に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時やチャット・ブログ等を活用し、日頃の様子を伝えると共に要望や思いを引き出せるよう関係作りを行っている。行事後は家族アンケートを実施し、今後の運営の参考にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見や要望をその都度伝えている。面談等を活用し、職員の思いをくみ取り運営に反映されるよう検討している。よりよい職場環境作りを今後も法人全体として取り組んでいく事が必要である。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の個々の目標や勤務状況など管理者は把握して、1人1人に声かけ等を行っている。また、法人内での懇親会や3ヶ月に1回ユニット内で食事会を行いリフレッシュできる環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	OJTシートや人事考課を活用し、知識や技術の向上に努めている。外部研修は、事務所に研修案内があり参加ができる。参加後はレポートを回覧している。内部勉強会も毎月開催され学ぶ機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者がネットワークを運営し、同業者との意見交換や研修等に参加が出来る。同業者とのネットワーク作りを今後も広げながら協力体制やサービスの質の向上に努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス導入時に不安や困った事を、ご本人と寄り添いながら話を聞き不安が軽減できるように対応している。信頼関係が築けるように、家族の思いもしっかり把握し関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の思いや意向を十分に聞きながら、サービスの導入をしている。面会時には、様子等を伝え話し合いを行っている。ご家族様の意見や要望を職員間で情報共有を行い信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族様・ご本人の思いを知り、リーダー・管理者が他のサービスの相談や利用を勧めている。サービスの導入時には、十分に気持ちをくみとりながら行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活を、職員と一緒にいたり1人で出来る方には任せている。職員と利用者様の関係ではなく共に生活を支え合う関係であると考え必要時のみ介入し関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に、利用者様の日々の様子を報告し、電話や便り・ブログ等で伝えている。行事等には、ご家族様にも協力して頂きご本人を共に支えあう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	電話や手紙や郵便物が届いた際には、返信をして関係を断ちきらないように支援している。馴染みの場所や人との関係が継続できるよう関係性を築いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活の中で、利用者様同士が協力し合う場面もあり人間関係が円滑に保たれるよう職員も関係作りに努めている。相性等を考慮し孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、ご家族様からの相談があれば相談等に行っている。また、ご家族様からご利用者様の様子を職員に報告して下さる等の関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の思いやケアの中での気づきを、ミーティングや申し送り時に話し合いケアプランに活かしている。日々の表情・態度・しぐさ等を意識しながらご本人の思いをくみ取っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートの活用やご家族様・ご本人からの情報を職員間で共有し、ご本人が生活の中で大切にしている事などを日々のケアに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご本人・ご家族様から生活歴等を聞き、安心・快適に過ごせるように努めている。また、ご本人の状態を見ながらできる事を見つけて行ってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族様からは面会時等に要望や意見を日頃から聞き、ご本人の思いをくみ取りながら介護計画を作成している。毎月、カンファレンスを行い、見直しや立案等を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に、ケアプランの内容が記載してあり日々のケアの中で出来ている項目にチェックしている。ヒヤリハットや事故報告も、ミーティング時に検討を行い再発防止に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族様の要望や意見を聞きながら、他のサービスを導入する支援を行っている。サービスの導入時は、管理者・職員・リーダーが検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	買い物や喫茶店等、近隣を利用し地域との関係作りを行っている。利用者様が近所の喫茶店に1人で行かれるなど関係が絶えないよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族様やご本人の希望を聞き医療機関を選択している。かかりつけ医には、月1回の往診や必要時の受診を行っている。受診時は、必要な対応をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員は看護師に、ご利用者様の状態変化や服薬状況を往診記録に記載し報告している。必要時は、指示を仰ぎ病院受診を行っている。情報共有を行い安心して生活できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とサマリーや介護記録等の情報提供を行い連携している。また、早期退院に向けて環境整備やケアの統一を行い支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期については、ご家族様・ご本人・管理者・リーダーと話し合いをしながら支援している。利用者様の重度化に伴い、ご家族様と話し合いを行いながら今後の方針等を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	内部勉強会や外部研修等で知識や対応方法を学んでいる。急変時や事故に対して不安な職員もいる為、定期的な学習や看護師や医師との連携を行い対応していく事が求められる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	ユニット内で3ヶ月に1回避難訓練を行っている。職員や利用者様が安全に避難できる体制作りを行っている。施設全体の避難訓練も実施している。地域への協力体制や危険への周知を今後も広めていく事が課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様やご家族様の立場に立って考えられるよう日々のケアの中でも意識しながら行動をしている。言葉使い・態度・プライバシー等を職員間で注意をし合える関係作りにも努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	想いや気持ちに寄り添い1人1人の希望等を引き出せるよう関わっている。利用者様とマンツーマンで過ごす時間も大切なケアと考えている。また、思いを職員間で共有し、ケアプランや個別ケアの企画等に活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様の要望に沿えるよう、その日に活動内容等を決めている。1人1人のペースに合わせながら声かけや誘導を行っている。レクリエーションや行事には、利用者様が主体的に参加できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時には、自己にて身だしなみが整えられるように目に付く場所にタンスを置いたり、鏡を自室内に置いたりしている。外出時は、洋服を着がえたり、お化粧する等のオシャレができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日の食事作りを全員で行っている。1人1人が出来る事を役割として行い、配膳・下膳・片付けも男性・女性利用者も協力している。食事時は、職員も利用者様と一緒に食事を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1人1人の食事摂取量や水分摂取量を確認し提供している。水分は、こまめに摂取できるよう時間以外でも提供したり、好みの飲み物を提供している。また、毎月体重測定を実施し体重の変化にも気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行っている。週1回、ホリデントの日を設け清潔保持に努めている。また、訪問歯科や衛生士からの指導を受けながら義歯や口腔内の清潔保持を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	利用者様の排泄パターンを知り、羞恥心に配慮をしながらトイレ誘導を行っている。自己にて排泄ができるようタイミング・場所等を工夫し検討している。可能な限り布パンツで過ごしてもらえよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表を活用し、申し送り等に情報を共有している。体操・散歩・レクリエーション・マッサージ等や食物繊維の多い食材や水分をこまめに摂取し、自然排便ができるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	基本的には、1日おきに入浴が可能である。希望があれば毎日入浴する事が可能である。入浴の順番や時間帯は、その都度聞きながら決めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中に散歩や外出などの活動的なレクリエーションを行っている。昼食後は、休息する方もみえたりと1人1人の状態に合わせて過ごす事ができる。夜間は、照明・音量・温度等に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護の日や往診時に、情報提供を行い服薬検討を行なっている。日頃から、職員も服薬の管理や副作用には関心を持ち、状態の変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	1人1人の得意な事を生活の場で活かせるよう工夫している。気分転換や楽しみ事として、エステ・買い物・喫茶店・映画鑑賞などが継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者様1人1人が行きたい所や、やりたい事などの希望に沿えるようにご家族様や地域の協力を得ながら個別ケアを実施している。また、モーニング・ランチ・喫茶・遠足等に出掛けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理は、基本的には施設側で行っている。利用者様・ご家族様の意向を聞きながら買い物や所時に対して支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙や郵便物が届いた際には、返信をし関係を断ち切らないようにしている。行事の招待状作りや年賀状等への支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロア内にはBGMを流し心地良い雰囲気を作っている。廊下には、季節に合わせた飾りや利用者様の写真・作品を掲示している。写真の掲示は、利用者様やご家族様が楽しみにされ日々の生活の様子を伝えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロア内には、和室もあり自由に過ごす事ができ好きな場所でくつろいでいる。また、共有スペースや他ユニットにも自由に行く事ができ利用者様同士の交流も出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、ご本人が自宅で使用していた家具等を持ち込まれ使いやすいように配置や飾り付けをしている。居心地が良い空間になるように、環境作りを行なっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様の居室に職員の手作りの名前札を立て掛け、分かりづらい方には扉に張り紙を貼り自分の居室が分かるようにしてある。また、トイレやお風呂にも張り紙をするなど工夫をしている。		